

# ROTARY CLUB OF OMIYA WEST



2023-24 年度 大宮西ロータリークラブ 週報



世界に希望を生み出そう



創立:1963年 3月 22日

会長 藤嶋 剛史

例会場:パレスホテル大宮

幹事 横溝 一樹

第2810例会 2024/02/26

例会日:月曜日12:30~13:30

クラブ会報委員会 竹ノ谷純宏

発行日 2024/03/04

## 会長挨拶

会長 藤嶋 剛史

ウクライナ侵攻から2年と2日が経ちましたが、本日卓話者の天江様よりお話を聞けるのは良い機会だと思います。ご紹介



をいただきました川鍋会員に感謝いたします。また、渡邊パスト本日はお越しいただきありがとうございます。私は来週の3月3日で入会から10年となりますが、その時ガバナーをされていたのが渡邊パストでした。地区米山出向の際は、選考委員長・部門委員長の2回担当していただき、大変お世話になりました。

さて、先日の例会で、島袋祥子会員の誕生祝いのスピーチの中に「誕生日は産んでくれたお母さんに感謝する日」というお話がありました。その時SAAの竹内さんから「お父さんにも感謝して欲しい」というコメントがありましたが、その竹内さんの四男のご息が先日結婚されまして、主賓の村井英樹さんから「四人も男の子を育てるのはさぞ大変だったはず、お母さんに感謝してください」というスピーチがありました。そこでもお父さんに感謝はなかったのですが、ただ、お母さんという言葉で思い出した話があるので皆さんに披露したいと思います。今から79年前までは日本も戦争をしていて、当時は多くの青年や少年兵など若い人たちも出征させられていました。そんな中、ある日アメリカ軍の攻撃で日本の船が撃沈されたのですが、海に投げ出されてもまだ生きていた人たちがいて、その多くが若者だったそうです。その人たちは最初、自分たちを鼓舞するために、軍歌を歌ったり、天皇陛下万歳などと叫んでいたようですが、次第に体力もなくなり、体温も奪われていく中で、最後に口にした言葉が「お母さん」だったそうです。一人が「お母さん!」と叫ぶと、皆が「お母さん、お母さん」と涙声で叫びながら海に沈んでいったと、わずかに生き残った人の記録に残っているそうです。戦争に巻き込まれる若者や子どもたちは、本当に悲惨だと思います。

一部の愚かな大人たちの思惑で、その大人たちの何分の一も生きられない人がいます。ポリオもそうですが、アフガニスタンやパキスタンに生まれていなければ障害を負うこともなかった、ウクライナやガザに生まれていなければ命を落とすことはなかった子どもや若者がいます。そして、かつての日本もそういう国の一つでした。しかし、いま日本は平和を享受しています。その私たちがいま、現状を深く知り、そして出来ることは何か、本日はそんなことを改めて考える機会になれば良いと思います。

## ロータリーの目的・四つのテスト

【本日のリーダー】

川井 理砂子 会員



## お客様紹介、米山記念奨学生紹介

- 元駐ウクライナ特命全権大使 天江 喜七郎様
- 第2770地区パストガバナー 渡邊 和良様 (浦和北 RC)
- さいたま市市議会議員 永井 りな様
- 2023 学年度米山記念奨学生 金 亮希さん (ご紹介:副会長 染谷 義一)



## 幹事報告

幹事 横溝 一樹



1. 先週・先々週にかけまして、米山委員会による新年例会反省会、クラブ会報委員会、会員増強維持委員会が、また2月22日に次年度地区チーム研修セミナーが行われました。ご参加の皆様お疲れ様でした。
2. 地区より能登半島地震支援金のお礼のメールをいただきました。また、あわせて地区内各クラブの支援金の内訳がございましたので配布いたしました。

把手共行 ~分かち合おう、共にロータリーの感動を~

事務局:さいたま市大宮区桜木町1-11-2 YK-12ビル 4階

TEL 048-871-8881 FAX 048-871-8882

E-mail: west@rc-omiya-west.com HP: http://rc-omiya-west.com/

